

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2773500562
法人名	有限会社 あすか
事業所名	グループホーム あすか
訪問調査日	平成 21 年 7 月 23 日
評価確定日	平成 21 年 8 月 6 日
評価機関名	NPO法人 ナルク福祉調査センター

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 2009年7月29日

【評価実施概要】

事業所番号	2773500562
法人名	有限会社 あすか
事業所名	グループホーム あすか
所在地	大阪府南河内郡河南町大字白木1403番4号 (電話) 0721-93-6376

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成21年7月23日	評価確定日	平成21年8月6日

【情報提供票より】(21年5月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	5人, 非常勤 5人, 常勤換算 8.3人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての		階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷 金	有() 円 無○			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 無○	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,800 円	

(4) 利用者の概要(5月15日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.2 歳	最低	74 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小川外科、前田クリニック、くまざき歯科
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホームあすか」は、河南町のほぼ中央部に位置する。町役場や福祉施設、消防署などがすぐ側にありながら田畑や山林など自然環境に恵まれた静かな佇まいである。設立者は看護師で、平成15年3月「高齢化社会に向けてお年寄りの想いに少しでも役立つように」と立ち上げた。「グループホームあすか」の最大の特徴は、職員10人中2人が看護師で、看護体制や利用者の重度化にも対応しており、重度化に伴う意志確認書も用意されていることである。利用者の気晴らしにも毎日の散歩や年2回の温泉旅行など、利用者話し合いながら色々なものが用意されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題は、①「食事を楽しく家庭的な雰囲気」②「服薬管理」③「金銭管理」についてである。②③は、豊富な知識・経験を持つ管理者・ケアマネのもと達成されていたが、食事風景は家庭的な雰囲気作りに今一つ欠けている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価・外部評価実施の意義を理解し、自己評価は職員全員で行い、サービスの質の向上に活かすべく取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、役場窓口職員・介護相談員・近隣住民代表・利用者・利用者家族・事業所管理者・職員等で構成され2ヶ月に一度開催している。会議では事業所の報告の他、参加者からの質問、意見、要望を受け双方向での話し合いが行われている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議は、役場窓口職員・介護相談員・近隣住民代表・利用者・利用者家族・事業所管理者・職員等で構成され2ヶ月に一度開催している。会議では事業所の報告の他、参加者からの質問、意見、要望を受け双方向での話し合いが行われている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の盆踊り、老人会の行事、農業祭等に利用者と共に参加し自治会にも加入するなど地域住民の一員として双方向の交流を図っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で独自の理念①利用者さん、地域の方々との「あいさつ」の励行②「真心」を持って接する③「明るく」「楽しく」「仲良く」④「出来ること」は手伝って共同生活を楽しく⑤毎日の散歩や植木(花)などを「育てる楽しみ」、をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所の5つの理念を玄関、リビングルーム、廊下に掲示し、全職員で共有しながら日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の盆踊り、老人会の行事、農業祭等に利用者と共に参加し自治会にも加入するなど地域住民の一員として双方向の交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価実施の意義を理解し、自己評価は職員全員で行い、サービスの質の向上に活かすべく取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、役場窓口職員・介護相談員・近隣住民代表・利用者・利用者家族・事業所管理者・職員等で構成され2ヶ月に一度開催している。会議では事業所の報告の他、参加者からの質問、意見、要望を受け双方向での話し合いが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役場の担当者には頻繁に訪問し、事業所の実情を報告したり、サービスの取り組み方について折に触れ伝えながら相談している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の家族等には、利用当初の約束事で月に一回以上は訪問してもらうことになっている。訪問の際には、その都度、暮らしぶりや健康状態について報告している。それ以外に、月に一度利用者家族等に金銭出納とともに文書で報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の訪問時や運営推進会議、意見箱の設置などと色々な場を設けて、何でも言ってもらえる雰囲気づくりに努力している。そこで出された意見は、職員全員で話し合い運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職や異動は殆どなく固定されているので、利用者は馴染みの職員による支援を受けている。また万が一、異動する際にも、いきなりの異動ではなく徐々に馴染めるよう猶予期間を設けてダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	看護師による段階的な研修会のほか、行政の研修会や他の事業所間の研修会や勉強会に参加しサービスの質の向上を図っている。また参加した職員は、その研修内容を毎月のミーティングで報告し、互いに共有しあうようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	河南町・太子町地区と羽曳野市の一部の同業者とケア担当者会議や勉強会など交流する機会を持ち、活動を通じてサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスをいきなり開始するのではなく、本人や家族等が事業所を見学することから始め、要望を聞いたり相談しながら体験入所をするなどして、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に職員は、利用者本人を介護されるのみの立場に置かず、人生の先輩として漢字を教わったり工作物の作り方を教わるなど、「共に過ごし、学び、支えあう」関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者がその人らしく暮らし続けることが出来るよう、日々の関わりの中から、また生活歴の中から意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の状態を良く把握し、家族等の要望あるいは必要に応じてかかりつけ医の意見を参考にし、毎月のヘルパー会議で介護計画作成者を中心にできるだけスタッフ全員で意見やアイデアを出し合っって介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	原則6ヶ月に一度ケアプランの見直しとしているが、利用者の状態は刻々変化する。そのため、その都度家族等に報告意見を聞きながらきめ細かく修正し、現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	できるだけ家族等に負担を掛けないように行政手続きの代行、往診以外のかかりつけ医の受診支援、認知症専門医の受診支援、入院された利用者について早期退院支援、買い物支援などを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	高齢者とはもすれば、かかりつけ医を変更しながらないので、従来のかかりつけ医の受診を支援している。それ以外の利用者には、提携医療機関を紹介したりして緊急時にも適切な医療を医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所で「重度化した場合における対応に係る指針」を作成し、看取り方法について家族等・医師・事業所側で共有している。職員にも「末期の時の手順」を作成し準備を徹底している。当事業所では、すでにターミナルケアを経験済みである。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する呼びかけは、お互いに常に注意しあっている。時に言葉遣いにやや問題があると判断した場合は、その場で随時指摘しあっている。記録類はロッカーに施錠の上保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者には一人ひとりの生活リズムがある。従って、事業所には一応の一日の流れはあるが、その日の暮らし方は利用者一人ひとりに決めてもらっている。そのために、自分で着るものを選んでもらったり、行きたいところや食事の希望も聞いたりしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立については、できるだけ利用者の意向を反映させている。2日に一度食材の買い出しに行くが、比較的元気な利用者が同行するようにしている。簡単な後片づけは利用者にも手伝ってもらっている。職員も食事の雰囲気や盛り上げるために絶えず声かけを行っているが、一緒に食事がなされていない。	○	食堂がやや手狭のため致し方ないとも思えるが、職員は場を盛り上げたり食事介助に徹していて、一緒に同じ食事をする姿が見られなかった。利用者と同じものを食べ、利用者に安心感を与え、さりげなく介助をする工夫を考えてほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、週2回の入浴となっているが、夏場は散歩などで汗をかく事が多い、そのためその都度シャワーなどで対応している。風呂嫌いの利用者には、職員それぞれの工夫により上手く誘導している。また、近くの温泉にも足浴に出かけるなど入浴を楽しめる支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	私もここで役立っている、と思ってもらえるように簡単な役割分担をしている。玄関のプランターの水やり、掃除、洗濯物干し、同たたみ、カレンダーの日めくり等がそれである。また、一人ひとりの名前を書いた朝顔鉢を育てたりもしている。最大の楽しみごとは、年2回の日帰り温泉旅行である。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	何よりも近隣への挨拶や季節感を味わってもらいたい事から、毎日の散歩や買い物を奨めている。週に一度、散歩の途中で喫茶店へ寄るのも楽しみの一つになっている。近隣の史跡巡りもよくしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日常、昼間は玄関は出入り自由で施錠していない。絶えず利用者の見守りケアに徹しながら、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を実施し、「防災の手引き」も作成している。夜間体制についても、運営推進会議で近隣の支援が得られるよう話し合いをしている。職員の居住地も河南町内が殆どで電話連絡網も完備している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人ごとに、毎日バイタルチェックと共に食事摂取量や水分摂取量を記録し、利用者一人ひとりの状態を確認している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間はやや狭い感じがするが、明るく清潔感がある。季節感を取り入れる工夫として、利用者の作品(主にちぎり絵)を居間に展示している。7月は七夕、8月は花火の展示予定である。食堂が兼用になっているので、食事の準備の音や匂いがして生活感にも溢れている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は、畳が敷かれたり障子が入れられたりして、落ち着いた和風の趣がある。利用者もそれぞれが日頃使い慣れた小物や家族の写真などを持ち込み、居心地よく過ごせるような工夫が見られる。		